

中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	法 学 部	身分	教授
氏名	宮野 洋一		
NAME	MIYANO Hirokazu		

1. 研究課題

(和文) 国際法における国際紛争処理制度・思考の整理のための体系再構築

(英文) Rethinking a more inclusive Theoretical Scheme for International Dispute Settlement

2. 研究期間

2019・2020・2021 年度 ※2021 年度は新型コロナウイルス感染症特例対応により 1 年間延長

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600 字程度、英文 50word 程度）

「紛争の処理（一般には 解決）」というテーマに関しては、実に様々な分野（国際法を含め法律学全般（特に法社会的側面、また弁護士実務の経験をベースにした実践的なもの）、国際関係論、平和構築論、ガルトウングの Transcend アプローチ、社会心理学、最近日本で始まった「和解学」プロジェクトなどで研究の蓄積がなされている。他方でそれらは、相互に参考に値する、あるいは共通する内容をもちながら、あたかも世界が異なるかのように相互交流は殆どないようにみうけられる状況で、常々残念におもっているところであった。それが今回のより包括的な国際紛争処理の理論的体系化の模索の出発点である。

まずは本来の専門である国際法学の分野で、それがどこまで、どのような形で広範に体系的に整理できるか。ひとつの可能性をしめすものとして、国際法の全体を「紛争」を中核にすえて、紛争の「回避・封じ込め・解決」と国際法との関連という形で一般講義の形でまとめた R.Higgins のところみを見いだすことができた。これは紛争に関わるツール・制度の側から、国際法を包括的に整理しようとするところみといえる。しかし紛争「解決」となると、結局「裁判」に戻ってしまう。

武力行使はその発生にはどめをかける、という形で最後に出てくるのだが、武力紛争を主軸に据えた英米圏のいわゆる Conflict Resolution 学（ここでは国際法は殆ど登場しない）とどのように接合していくべきか。また、国際法の中でも、国際刑事裁判や、WTO のような、2 辺関係におさまりきらない制度を、紛争処理でくくることがの限界など、難問が多い。

他の整理の可能性としては、種々の紛争の性質・分野に応じて、場合によりその原因分析まで立ち返って紛争解決の手法を種々整理するやり方も考えられるが、これも非常に多様になってしまい、種々雑多なもの併記を越えることがなかなかできないでいる。これらをすべて考慮したときに、どのように再体系化すればよいか、結局、まわりまわって体系的にまとめることの意義自体をいまいちど再考せざるを得ないと考えるに至ったところであり確たる成案を得られたとはいいがたい。

(英文) There are variety of studies , theories, tools, systems concerning Dispute Settlement/ Conflict Resolution. Typical of those are Mediation, Judicial Settlement of Disputes by International Law, Peace Building, "Transcend Approach"(J.Galtung), Truth and Reconciliation Approach,International Criminal Court Approach, WTO Dispute Settlement, Socio-psychological approach, Negotiation to name only a few. But each endeavor seems to fairly stand alone and seems to miss opportunities for mutual fertilization. Together they could widen our understanding and ideas about dispute settlement. What I would like to aim in this project is to set up a more comprehensive theoretical scheme for Internatioal Legal Dispute Settlement field to widen the scope of " Dispute Settlement" conceptual tool box. But it is easy said,,hard to reach. I have not figure out a persuasive alternative explanatory scheme yet.